

## シンポジウムSY3-3 潜水事故の傾向

野澤 徹 平川雅一 白石健太 高野 修  
宮里一敏

(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 (DAN JAPAN)

近年の潜水事故の傾向を2020年の事故を中心に、概観する。

2020年の事故は総数36件と5年ぶりに30件台に減少したが、一方、死亡・不明事故は17件(47.2%)であり、事故全体に占める死亡・不明の割合は大幅に増加した。2020年は、世界的に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、ダイビング活動も全体的に減少し総数が減ったと考えられるが、死亡・不明の割合が増加した理由は不明である。また、事故全体でみると、男女比は同じ(50%)であったが、死亡・不明に占める割合では、男性が再び70%を超えた。

年代別に事故を見ると、50歳代が最も多く全体の33.3%を占める。また、50歳以上でみると全体の58.3%と半数以上を占める。高齢者に死亡・不明事故が多いことも特徴的であり、死亡・不明の割合を見ると、30歳代までの死亡・不明は17.6%であるのに対して、40歳以上では、82.4%と顕著に多い。中高年ダイバーへの注意喚起が必要であろう。この傾向は、2016年から2020年までの5年間の事故全体でも同様である。

2020年の事故を経験年数で見ると、1年未満から10年未満までは漸減傾向にあり、10年以上で跳ね上がる。この傾向は、2016年から2020年までの事故全体でも同様である。10年以上の経験者は、それ以上細分された区分がないため、母数(ダイバー総数)が多いことも考えられるが、加齢による身体能力の低下も考えられる。また、経験のない者(ダイビング入門講習と体験ダイビング)での事故が多く、これについては、指導者側の問題が考えられる。経験年数とは別に、事故までの1年間に何回のダイビングを行っているかという視点でみると、活動数が少ないダイバーで事故が多く、年間50本で最低になり、51本以上で微増する傾向がみられる。こうしたことから考えると、ブランクを作らずにダイビングすることが安全につながると思われる。